



愛知長久手ロータリークラブ

2015-2016



WEEKLY

例会日=毎週火曜日 PM12:30 例会場=トヨタ博物館「小ホール」

会長 小谷恒夫 幹事 青山和成 会報 宮下智香子

Email: a.nagakuterc@aurora.ocn.ne.jp

事務局 TEL:0561-64-5446

FAX:0561-64-5459



世界へのプレゼントになろう



本日 第 626 回例会 2016 年 3 月 1 日(火曜日)第 618 号

<本日のプログラム> Today's Program

点鐘

演題: 眠りの相談所

講師: 山田 文明

<ロータリーソング> 「君が代」「奉仕の理想」

前回 第 625 回例会 2016 年 2 月 23 日(火曜日)記録

<ロータリーソング> 「我らの生業」

総合司会

伊藤 真親睦活動委員

<出席報告>

員総数 20 名

出席者 7 名 出席率 35.00 % 前々回補正出席率 95.00 %



チキンセット

<会長挨拶>

愛知長久手ロータリークラブ

青山和成幹事



ボードゥアン 1 世

(Brussel RC)

ベルギー国王

在位 1951 年 7 月 17 日 - 1993 年 7 月 31 日

全名 ボードゥアン・アルベール・シャルル・レオポルド・
アクセル・マリー・ギュスターヴ

出生 1930 年 9 月 7 日

ベルギー、ブリュッセル

死去 1993 年 7 月 31 日 (満 62 歳没)

スペイン、モトリル

埋葬 ベルギー、ブリュッセル、ラーケン、ノートルダム
・ド・ラーケン教会

配偶者 ファビオラ・デ・モラ・イ・アラゴン

王家 ベルジック家

父親 レオポルド 3 世

母親 アストリッド・ド・スエード

宗教 キリスト教カトリック教会



実名はボードゥアン・アルベール・シャルル・レオポルドアクセル・マリー・ギュスターヴ

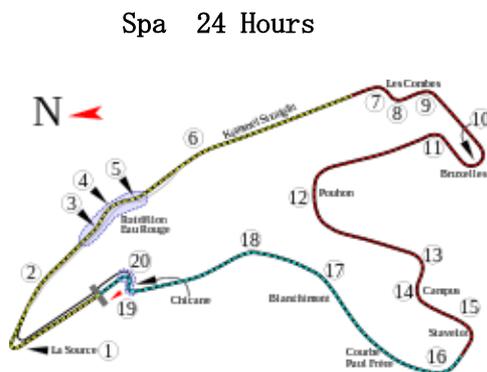
1930年、ブラバント公爵レオポルド3世と、スウェーデン国王オスカル2世の三男ヴェステルイェーランド公カールの三女アストリッドとの間に長男として生まれる。

第二次世界大戦中、レオポルド3世はナチスの捕虜となっており、戦後に帰国したものの国民の支持を得られなかった。そのためボードゥアンは1950年に王太子（Prince Royal）に叙され、翌1951年に父王から譲位された。

1960年6月30日、ベルギーの植民地であったコンゴ共和国の独立と植民地支配の終わりが宣言された。レオポルドヴィルで挙行された独立式典において、ボードゥアンが行った挨拶は、私領地としてコンゴ自由国を創設して非人道的な暴虐な統治を行い非難された彼の祖父の叔父に当たるレオポルド2世を「天才」と呼び、コンゴの独立をベルギーによる「文明化の集大成」と表現した上、「（ベルギーが残した諸制度の）性急な変更は将来を危うくする」と忠告までした挑発的なものであった

1990年に妊娠中絶法案が議会を通過した際、議会はボードゥアン1世に法案への署名を求めたが、ボードゥアン1世は敬虔なカトリック教徒であり、また王妃ファビオラとの間に子供が授からなかったことから法案への署名を拒否していた。しかし署名を拒否すれば立憲君主制の原則を揺るがすことになるため、内閣はボードゥアンと協議を行った。その結果、ボードゥアンを一時的に「統治不能」状態とし、その間に内閣が代理で法案に署名することとした。ボードゥアン1世は1990年4月3日から、法案成立後の4月5日まで統治不能状態に置かれていた。

1993年7月31日、スペイン南部に滞在中、心不全により崩御（この日、同国のスパ・フランコルシャンで行われていたスパ・フランコルシャン24時間レースの開催中に崩御した為、同レースが途中中止となった）。弟のリエージュ公爵アルベールが王位を継承した



開催地： スパ・フランコルシャン
初開催： 1924
耐久時間： 24 時間
最多勝利： エリック・ヴァン・デ・ポール
（ドライバー）
最多勝利： BMW
（マニファクチャー）

フランスのル・マン24時間レース、アメリカのデイトナ24時間レースとともに『世界三大24時間レース』や『世界三大耐久レース』と呼ばれることもある。ただしスポーツカー中心の耐久レースであるル・マン、デイトナに対し、スパの24時間レースは市販車改造車（ツーリングカー）中心の耐久レースであるのが大きな特徴である。その意味でレースの性格としてはドイツのニルブルクリンク24時間レースに近い

2009年現在、日本車の総合優勝は1981年のマツダ・RX-7と1991年の日産・スカイラインGT-Rの2度^[1]。さらに1991年にはアンデルス・オロフソン、デビッド・ブラバムと組んだ服部尚貴が日本人として唯一の勝利を挙げている 世界三大レース モナコグランプリ ル・マン24時間レース インディ500

<委員会報告>

■ニコボックス■

- ・本日は会長がインフルエンザで会員の皆さんも欠席が多く寂しいですが、元気良く行きましょう！！宜しく御願い致します。 青山 和成
- ・本日もよろしくお願ひします。青山幹事のとりしきる姿楽しみにしています。 伊藤 広治
- ・青山和成さん本日の卓話楽しみです。 山田 文明
- ・少し暖かくなりましたね。風が流行っていますので気をつけましょう！！ 中川 清子
- ・本日も宜しく御願ひします。 宮下智香子
- ・本日もどうぞ宜しくお願ひいたします。 伊藤 真

<幹事報告>

- ① 3/29 例会会場は長久手まちづくりセンターになります。時間は12:30-13:30です。3月は例会会場が異なりますので会員の皆様お間違えのないようお越し下さい。
- ② 4/24(日) 地区研修・協議会出欠の件、ご連絡されていない方は早急にご連絡お願ひいたします。
- ③ 尾張旭ロータリークラブ事務局三浦さんが今月末退社されます。
- ④ ナサニエル君のお母様の来日予定が決まりました。4/23に来日され、5/7・8に帰国予定です。
- ⑤ 今後幹事報告に次週の卓話担当のご連絡をいたします。3/1 山田文明さんです。よろしくお願ひいたします。

<卓話>

<2月 平和と紛争予防/紛争解決月間リソースより紹介>

一部族間の対立がない平和な世界を目指してー



10月にロータリー世界本部を訪れたモニカ・ケニューアさん(右)と妹のジェーン・ワンジルさん。

写真提供 写真提供: Rotary International/Monika Lozinska ケニア北部にある小さな遊牧民コミュニティではここ数十年間、互いへの不信感、乏しい資源、家畜の窃盗といった問題が引き金となって、武力間での暴力が絶え間なく続いています。

この状況を改善させようと、ロータリー奨学生のモニカ・ケニューアさんと双子の妹のジェーン・ワンジルさんが、争いをなくすために部族間の子どもたちの友情を培うプログラム、「Children Peace Initiative Kenya (CPI)」を立ち上げました。

2014年5月、米国・サンディエゴとケニア・ナイロビのロータリアンが協力したグローバル補助金を利用し、ケニア北部でも最も危険な地域の一つとされるサンプル郡のパラゴイで、子ども向けの平和キャンプを実施。2年前に牛泥棒の殺害事件があり、40人の警察が捜査を行っている地域でもあります。

それぞれ3つの学校に通うトゥルカナ族とサンプル族の子どもたちが、教師と共に参加したこの平和キャンプ。5日間の日程で、お互いをより良く知り、友情を培うための活動が行われました。キャンプの最後には、参加した子どもたちの全員が、ほかの部族の子どもたちと仲良くなりたいという思いを強くしました。

CPIのボランティアは、マルサベット郡近郊でも同じような行事を開催。違うコミュニティに住む子どもたちが友情を育んだ結果、互いの家族の友情が深まりました。ケニューアさんによれば、家族同士でヤギを交換したケースもあったそうです。

CPIによる活動が始まる前には、武力による解決法しかなかったこの地域。話し合いには、武装した交渉人を介したこともありました。その意味でこの平和キャンプは、この地域での暴力の発生を低下させる一助となっています。

「子どもたちはこれまで、紛争解決に直接的に関わったことはありませんでした」とケニューアさん。「その役目は成人男性に任されてきましたが、私たちのプログラムによって、コミュニティ間の平和に子どもたちが直接貢献できるようになり、親にもよい影響が与えられます。さらには、コミュニティ全体が平和に向かうよう手助けできるようになったんです」

ロータリー奨学金に後押しされて

ケニューアさんがロータリーと初めて関係を持ったのは2011年ことでした。その頃ケニューアさんは、米国のサンディエゴ大学で平和と司法の修士号を取得するための奨学金の最終候補者の一人でしたが、生活費を賄う資金源が全くありませんでした。奨学金を受けるかどうかの最終決断を迫られたちょうどその頃、以前から入会しようと考えていたローターアクトクラブの例会に参加しました。

そこで出会ったのが、ある非営利組織を通じてケニアを訪れていたキャロル・カースさん。カースさんの母親、ジャニス・カースさんは、サンディエゴ地域のロータリアンで、その18カ月前にロータリーの職業研修プロジェクトの一環でケニアを訪れていました。

ジャニスさんは当時をこう振り返ります。「キャロルがケニアに旅立ったとき、何かの役に立つかもしれないと、私の名刺を持たせたんです。私たちの地区はちょうど、ケニューアさんが希望していたサンディエゴ大の学部への留学生のために奨学金を提供していました。そこで、地区の関係者に直接説明して、最終的に彼女に奨学金を授与することが決まったのです。その時私が、ホストカウンセラーになると立候補しました」

その後、留学中に実の親子のように親しくなったカースさんとケニューアさん。留学がそろそろ終わりに近づくころ、カースさんはナイロビ・ロータリークラブの知り合いに連絡し、ケニューアさんの活動への支援を要請したことがきっかけとなり、今回の平和キャンプをサポートするグローバル補助金の申請へとつながりました。

今では、CPIの活動を耳にした多くのコミュニティが支援を求めるように。各平和キャンプの最後に、参加した地域のリーダーたちが、このプログラムを必要とするほかの村を紹介します。

ロータリー奨学金によってリーダーシップのスキルを磨き、活動へのサポートを幅広く募ることができるようになったとケニューアさん。今では、ロータリー会員を通じて知り合ったというサンディエゴの非営利団体「Interactions for Peace」とパートナーシップを組んでいます。また、サンディエゴ大学もケニューアさんの団体をサポートしています。

ケニューアさんは次のように話します。「ロータリーのおかげで、可能性と機会がより一層広がりました。これまで出会った方々は、引き続きよき助言者として、私のキャリア形成に重要な存在となっています。教育と平和に力を注ぐロータリーは、世界の平和と国際理解にとって大切な財産だと思います」



3月8日(火)	3月15日(火)	3月22日(火)	3月29日(火)
会員卓話	会員卓話	規定休日	会員卓話
(華野)	(華野)		(長久手まちづくりセンター)